

「親父にビールを買ってやろう」

ある給料日にそう思い、お店でケース買いして、実家に届けに行きました。当然、親父は喜び、すぐに乾杯。そう思ったのですが、親父の反応は違いました。「明日からありがたく飲むよ」と。「なんだよ！いま飲まないのかよ」と思いつつ、その日は自分の家に戻ったのですが、翌日、仕事中に電話が鳴りました。実家からでした。

「え、親父が、進行性の胃ガン！？ 余命3ヶ月？」

もう胃の出口がガンで塞がれていて、栄養はチューブからとなるので即入院とのこと。「しまった！」

その瞬間の言葉を表すならば、それです。

何も親孝行しないまま、「ありがとう」すらまともに言えないまま、親父との時が終わってしまう……。その時が来るとすればもっと後だ。漠然とそう思っていました。息子の贈ったビールを一口も口にしないまま、その時が来てしまうのか。「しまった！」。今もその言葉でしか表現できません。

親父はとても真面目で律儀でしたから、医師の見立てと違わず、「余命3ヶ月」、その通りに死にました。その3ヶ月、自分なりに、なりふりかまわず親父の看病はしました。けれども、父を取り戻すことはできなかった。あっという間に永遠の別れがやって来ました。

息子としていつかできる。いつかはやろう。そのうちやろう。

そう思ってきたこと、なにひとつできなかった。どんなに泣いて反省しても、どんなに出世しても、どんなに神に祈ってもできない。そういう「時間の限り」ってある。「いつもできる」なんてことは、この世にひとつもないんだ。やるならば「今」しかない。やれることは「今このとき」にしかない。そう全身全霊で学んだのです。痛いくらいに。

ちなみに、最後の一時退院の際、ほんとうにチビリとだけ、私の買ったビールを飲んでくれて、「うまいな～」と言った親父の姿が、唯一、少しの救いです。久しぶりに押し込めていた感情と向き合えました。泣けました。

ひすいこうたろう著 「あした死ぬかもよ？」より

早いもので今年も残すところ1ヶ月・・・気忙しい季節となりますが、年末年始は久しぶりに両親や兄弟、親戚、友人などといっしょに過ごす時間も多くなる時期です。

「いつでもできる」と思わず、後悔しないよう「ありがとう」「ごめんなさい」「許して下さい」「愛してます」と正直な気持ちを両親に、大切な人にきちんと伝えましょう！！

私の両親も、父85歳、母80歳となり、父は施設にお世話になっていて、母は一年前より我が家に引き取って一緒に暮らしていますが、しっかり感謝の気持ちを伝えた事はない気がしますので、恥ずかしがらずにきちんと「産んでくれて育ててくれてありがとう」と伝えようと思います！

※ご両親が亡くなっている方は、その気持ちを空につぶやく事が最高の親孝行だそうです！！

「あなたが生まれたとき、あなたは泣いていて周りの人たちは笑っていたでしょう。だから、いつかあなたが死ぬとき、あなたが笑っていて周りの人たちが泣いている。そんな人生を送りなさい。」

(ネイティブ・アメリカンの言葉より)

こんな「人生」になれるように一日一日、一瞬一瞬を大切に生きたいものですね！

